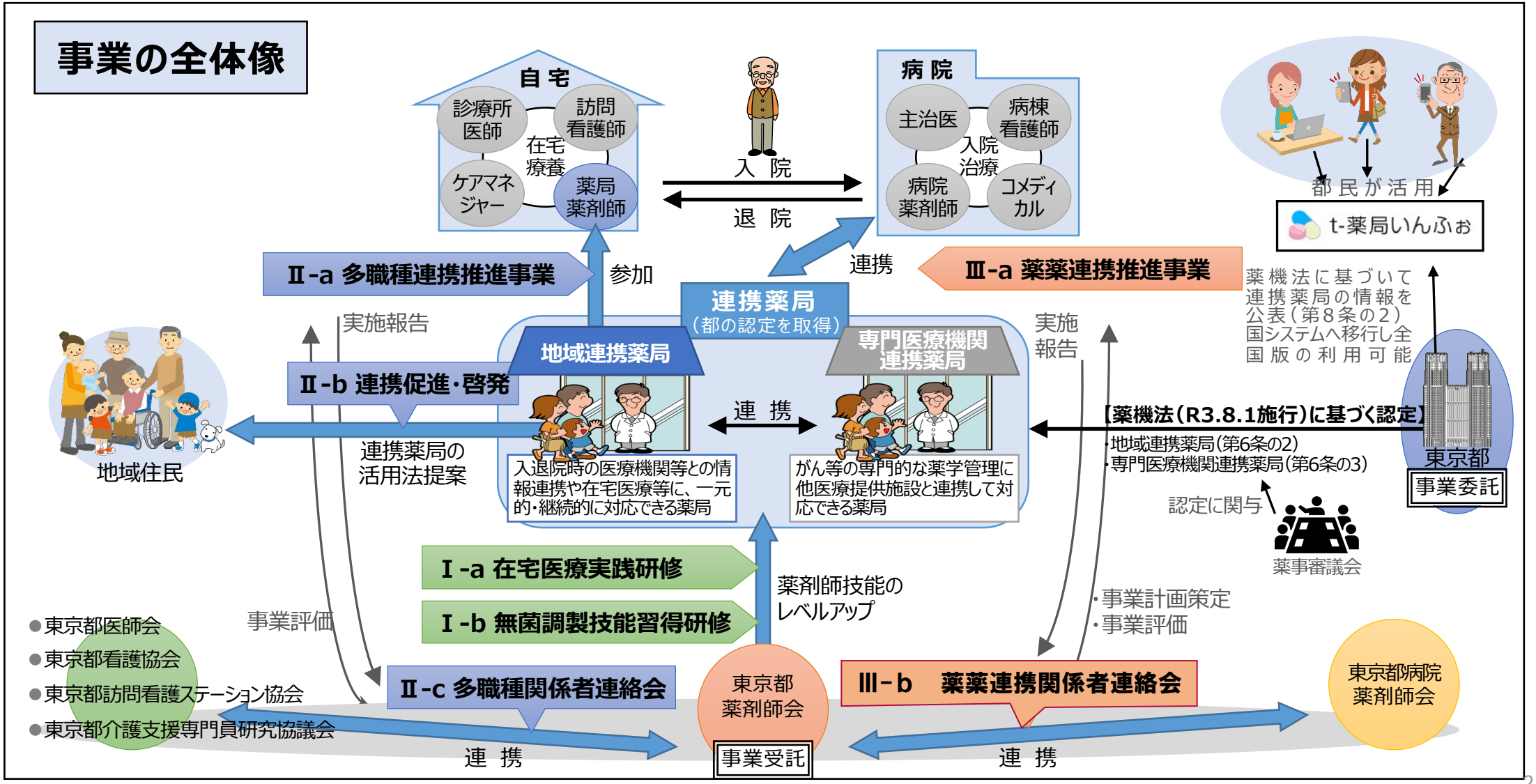
薬薬連携推進事業の目的について

令和５年９月29日
「薬薬連携推進事業」担当者説明会
東京都保健医療局健康安全部薬務課

地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業の全体像



地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化

目　　的

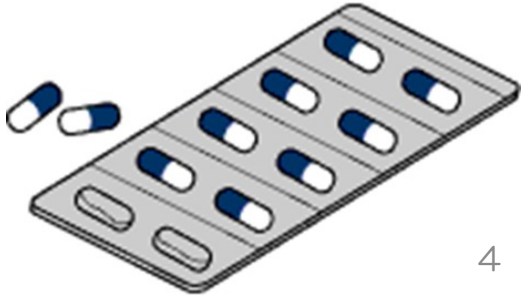
　連携薬局活用のための基盤を整備するとともに、地域の医療・介護従事者と薬局薬剤師との連携（多職種連携）及び病院薬剤師と薬局薬剤師の連携（薬薬連携）を構築・強化することで、医療・介護の中で連携薬局の特性と薬剤師の職能・専門性を最大限に発揮し、**患者に安全かつ有効な薬物療法を切れ目なく提供していく**ことを目的とする。

Ⅲ-a,b　薬薬連携推進事業の背景

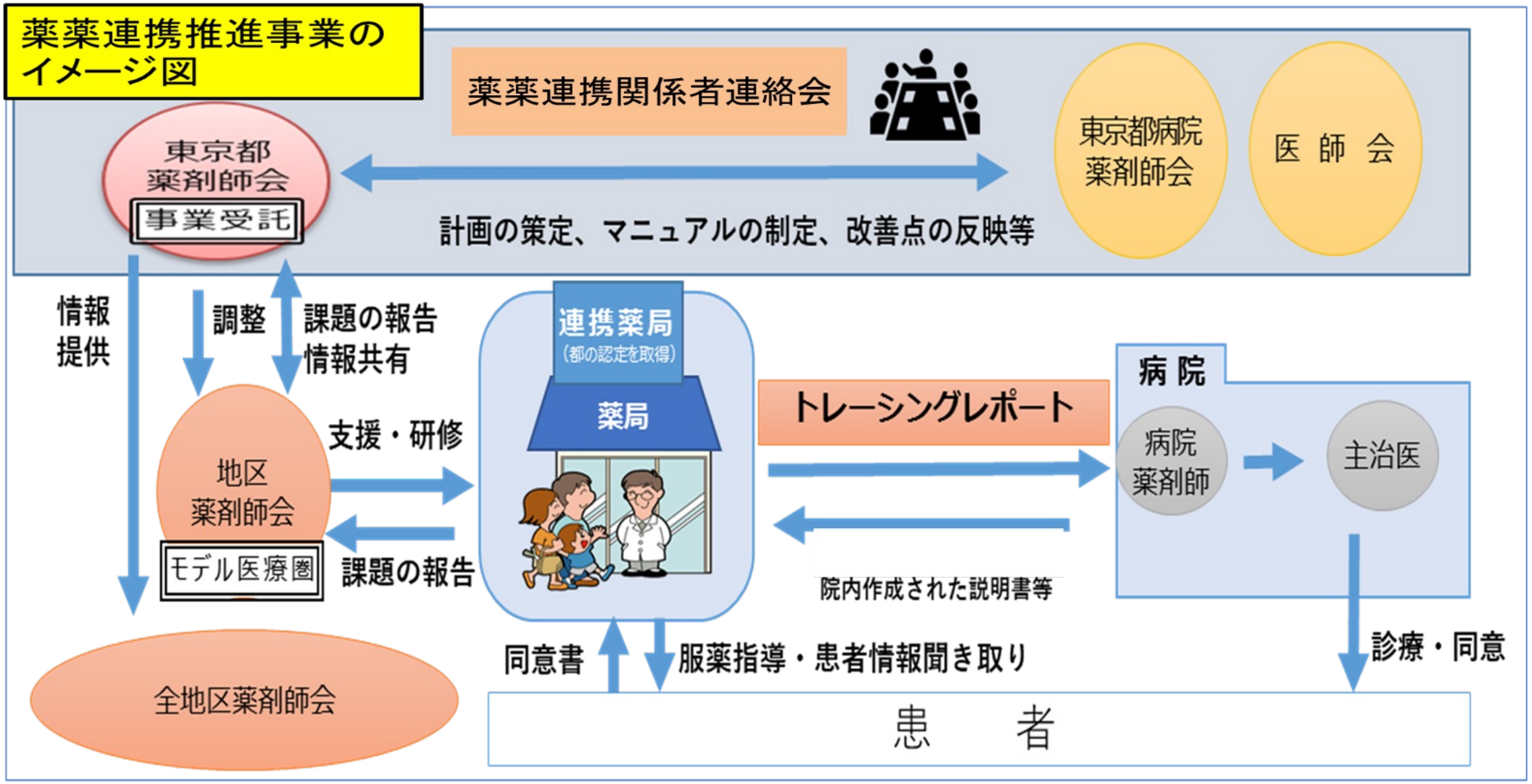
患者の服薬状況等を医療機関にトレーシングレポート等により提供した薬局：54.5%(前年48.9%)　令和４年１２月３１日時点

⇒薬局・病院間において服薬情報等を共有できる環境を整備し、
　患者の服薬状況等を一元的・継続的に把握する仕組みを構築する。

【参考】
　令和２年１２月３１日時点（事業を開始する前）の実績：３８．２%



Ⅲ-a,b　薬薬連携推進事業の全体像



Ⅲ-a　薬薬連携推進事業の目的

病院等と地域薬局の情報交換の活性化

⇒トレーシングレポート普及は連携の目安であって、
　目的ではありません。

情報交換の活性化のツールとして
　「有意義なトレーシングレポート」の活用を。

⇒トレーシングレポートの受け取る医師や病院薬剤師が
　「もらって良かった（助かった！）」と思えるようなものを目指す。

※　格調高くアカデミックな内容に固執する必要無し。役に立つ情報ならばよい

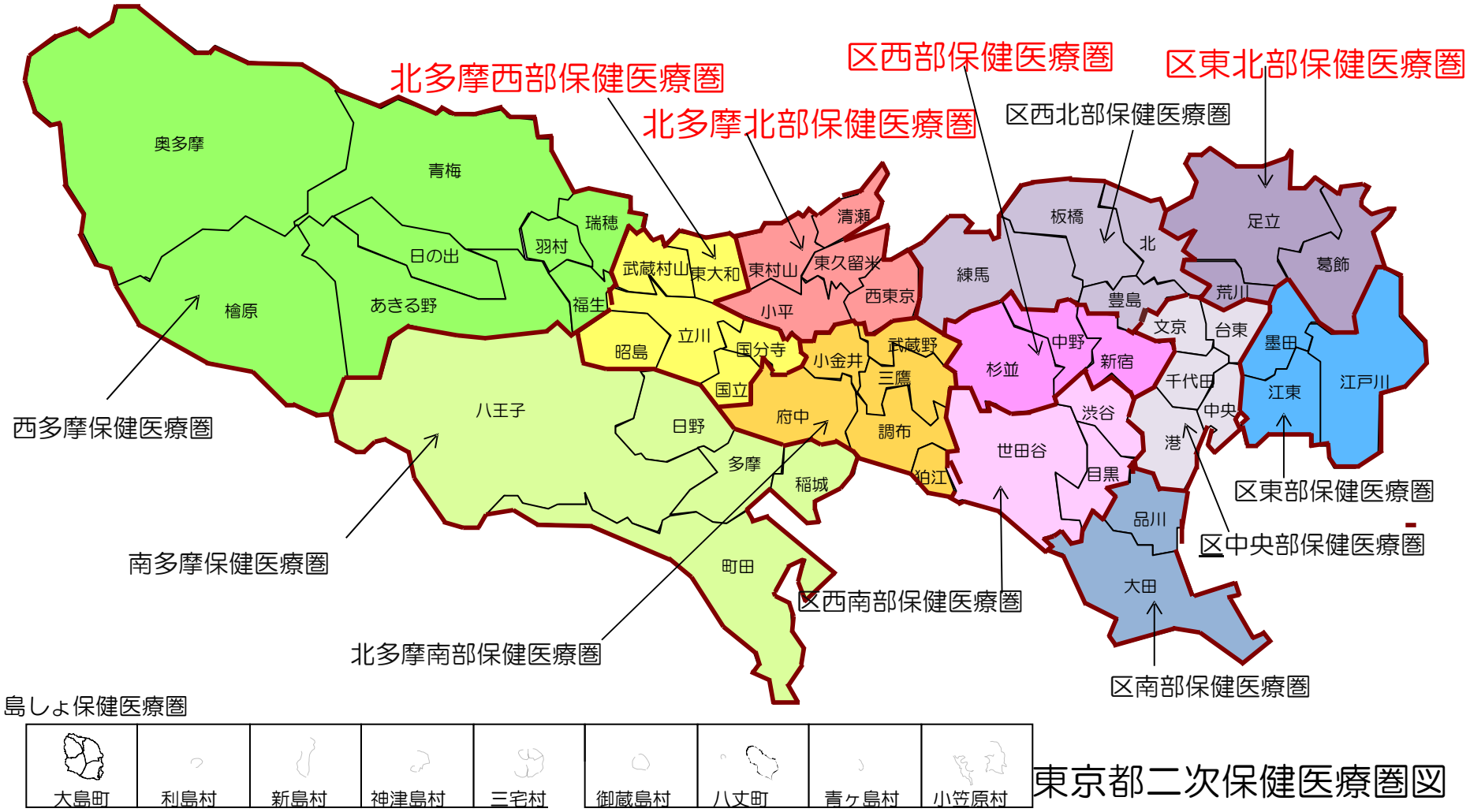
薬薬連携推進事業の展開にあたって

●個々の薬局だけで業務を行ったり、特定の医療機関と薬局だけの連携体制では十分ではない。地域における薬局と医療機関、介護事業者等との連携体制を構築し、患者を支える体制が必要

出典：令和２年度　日本薬剤師会　行政薬剤師部会
厚生労働省資料

⇒　地域の薬剤師会、病院薬剤師会等による取組（薬薬連携の推進）

令和５年度の事業対象（協力）モデル地区



東京都二次保健医療圏図

ご清聴ありがとうございました。